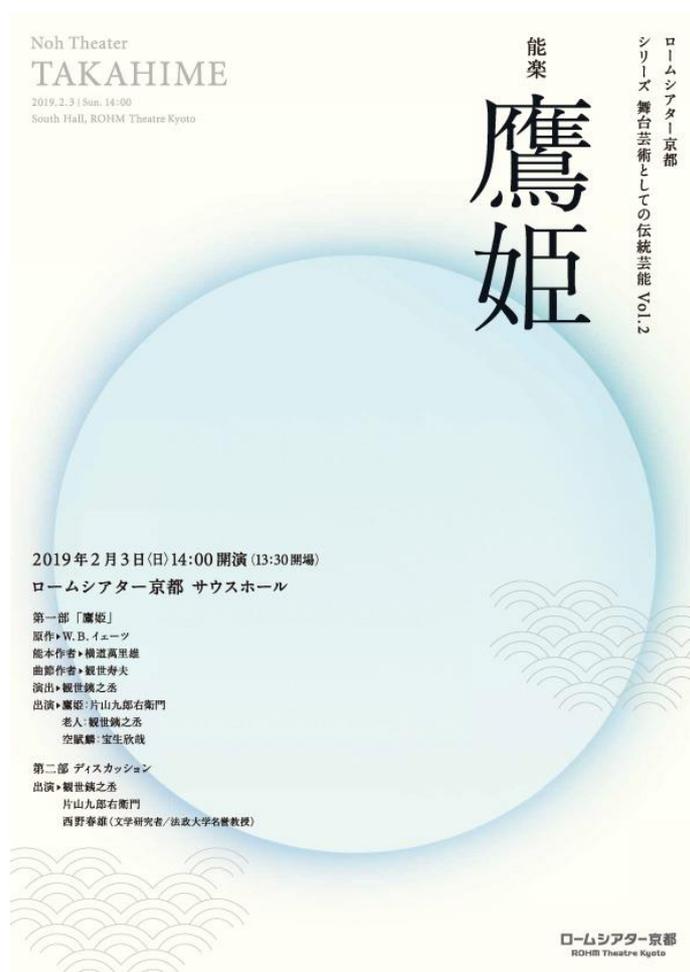


平成 30(2018)年 10 月 25 日配信
[本リリース発信元]ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)

ロームシアター京都

シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.2
能楽「鷹姫」



2019年2月3日(日)14:00開演
ロームシアター京都 サウスホール

[本リリースに関するお問合せ先]

ロームシアター京都(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団) 広報担当:松本、長野
電話:075-771-6051(9:00~17:00) FAX:075-746-3366 E-mail:press@rohmtheatreyokyo.jp

伝統芸能の継承と創造を目指すシリーズ 第二弾は、“能”がテーマ

■シリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」について

ロームシアター京都の自主事業として平成 29 年度（2017 年度）から始まった伝統芸能の継承と創造を目指す、シリーズ「舞台芸術としての伝統芸能」。

能楽（能・狂言）、日本舞踊、人形浄瑠璃文楽、歌舞伎を始め、世界レベルで見ても、高度で独自性が強い芸能が、数多く、しかも日本の全国各地に存在します。それらを同時代の舞台芸術として、伝統芸能の持つ普遍的なエッセンスがより鮮やかに浮かび上がるような仕掛けを施し上演する企画として、昨年度から始まりました。今年度は Vol.1 「一居一道（いっきょいちどう）」（スーパーバイザー：尾上菊之丞／尾上流四代家元）に続いて二年目となります。

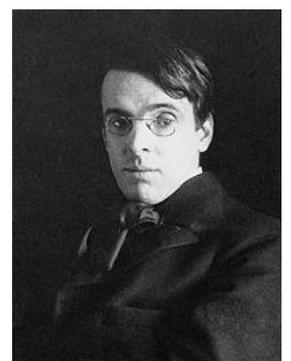
■第二弾 能楽『鷹姫』

今年度は、“能”をテーマに、「鷹姫」を舞台芸術バージョンとして上演します。上演後には、能楽師と専門家によるディスカッションも行います。

< 作品紹介 >

鷹姫（たかひめ）

「鷹姫」は、アイルランド出身でノーベル賞作家の W. B. イェーツが、能に触発されて書いた舞踊劇「鷹の井戸」（1916）が原作。それを横道萬里雄が新才能として改作・翻案し「鷹の泉」として、さらに自由な翻案が施された新しいバージョン「鷹姫」として観世寿夫が 1967 年に初演。以来現在も上演されている、外国人作家が原作の能。フェロサの能の訳本を読んだイェーツは、当時ケルト文化の復興を強く願っており、ケルトの神秘性と能の幽玄が似ている所に着目して「鷹の井戸」を書いたと言われている。



W. B. イェーツ

<出演者プロフィール>

観世鍔之丞（かんぜてつのおじょう）

観世流シテ方。八世観世鍔之丞静雪（人間国宝）の長男として東京に生れる。名は暁夫。伯父観世寿夫、および父に師事する。1960年、4歳で初舞台。1964年、初シテ『岩船』。2002年、九世鍔之丞を襲名。襲名披露能で『當麻』を舞う。平成20年度（第65回）日本芸術院賞を受賞。2011年、紫綬褒章を受章。力強さと繊細さを兼ね備えた謡と演技には定評がある。東京および京都、大阪でも活躍するほか、海外公演にも多く参加している。重要無形文化財総合指定保持者。公益社団法人鍔仙会代表理事。公益社団法人能楽協会理事長。京都造形芸術大学評議員。都立国際高校非常勤講師。漫画「花よりも花の如く」監修。著書に『能のちから一生と死を見つめる祈りの芸能』がある。



片山九郎右衛門（かたやまくろえもん）

観世流能楽師シテ方片山幽雪（九世片山九郎右衛門・人間国宝）の長男。祖母は京舞井上流四世家元井上八千代（人間国宝）、姉は五世家元井上八千代（人間国宝）。父及び八世観世鍔之丞（人間国宝）に師事。片山定期能楽会を主宰。全国各地で多数の公演に出演する他、ヨーロッパ、アメリカでの海外公演にも積極的に参加。また、学校公演及び学校における能楽教室の開催、「能の絵本」の制作、能舞台のCG化など、若年層のための能楽の普及活動も手掛ける。重要無形文化財（総合指定）保持者。京都府文化賞奨励賞、京都市芸術新人賞、文化庁芸術祭新人賞、日本伝統文化振興財団賞、京都府文化賞功労賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、観世寿夫記念法政大学能楽賞を受賞。公益社団法人京都観世会会長、公益財団法人片山家能楽・京舞保存財団理事長。平成23年1月に十世片山九郎右衛門を襲名。



■気鋭の建築家・dot architectsによる舞台美術を通して 演劇空間としての能舞台の可能性を探る

本来、自然の中で演じられてきた能楽ですが、寺社仏閣、能楽堂など演じられる場を変えていく中で、独自の発達を見せてきました。演じる場を変えることは、空間と身体の関係を考えることでもあり、それは演じる側にとっても鑑賞する側にとっても可能性を広げるものであると言えます。ロームシアター京都のサウスホールというフラットともいえる舞台空間を利用した企画であることを生かし、能舞台の可能性を探ります。このたび、空間設計に、大阪・北加賀屋を拠点に活動し建築設計だけに留まらず、現場施工、アートプロジェクト、さまざまな企画にもかかわる dot architects (ドットアーキテクト)・代表の家成俊勝を迎え、演劇空間としての能舞台について新たな角度からそのありようと可能性を探ります。

【dot architects (ドットアーキテクト)】

家成俊勝、赤代武志により設立された建築家ユニット。大阪・北加賀屋にて、アート、オルタナティブ・メディア、アーカイブ、建築、地域研究、サークル、NPO など、分野にとらわれない人々や組織が集まる「もうひとつの社会を実践するための協働スタジオ」コーポ北加賀屋を拠点に活動。設計、施工のプロセスにおいて専門家・非専門家に関わらず様々な人との協働を実践している。設計だけに留まらず、現場施工、リサーチプロジェクト、アートプロジェクトなど様々な企画にもかかわる。近年の主なプロジェクトに、代表作として、アートホステル kumagusuku (2015、京都)、美井戸神社 (2014、香川) の設計、また Umaki Camp (2013、小豆島) と個人住宅 No. 00 (2011) では設計だけでなく施工も担う。第 15 回ヴェネチア・ビエンナーレ国際建築展 (2016) にて審査員特別表彰を受賞 (日本館出展作家)。現在のメンバーは家成俊勝 (写真一番右)、赤代武志、土井亘、寺田英史、宮地敬子、池田藍、菊池琢真の 7 名。



家成俊勝 (いえなりとしかつ) 【建築家/dot architects 代表】

1974年 兵庫県生まれ。

関西大学法学部法律学科卒。大阪工業技術専門学校夜間部卒。

専門学校在学中より設計活動を開始。

京都造形芸術大学 空間演出デザイン学科 准教授

大阪工業技術専門学校 建築学科Ⅱ部 非常勤講師

<コメント>

能を観ると出口のない森の中にいるような、そんな気分になります。身体や声を極限状態で操っているにもかかわらず、それが自然に近づいていくような不思議な感覚です。鷹姫で感じたのは、遙か遠くにある決して到達できない。何か。それがどのようなものかもわからないが、その存在はある。感じがする。その感じを頼りに進むが、何も無い。がまた続く。そのような、木が一本も生えてないのに出口のない森のような存在です。普段は実際に人々が活動するリアルな場所を設計していますが、大きくて抽象的な世界をどのような空間でサポートできるか考え続けています。

<開催概要>

ロームシアター京都 シリーズ 舞台芸術としての伝統芸能 vol.2

能楽「鷹姫」

日時：2019年2月3日（日）14:00 開演

会場：ロームシアター京都 サウスホール

第一部「鷹姫」

原作▶W. B. イェーツ

能本作者▶横道万里雄

曲節作者▶観世寿夫

演出▶観世鍔之丞

出演▶鷹姫：片山九郎右衛門

老人：観世鍔之丞

空賦麟：宝生欣哉

第二部 ディスカッション

出演▶観世鍔之丞

片山九郎右衛門

西野春雄（文学研究者/法政大学名誉教授）

チケット発売日：2018年10月14日（日）一般発売開始

※フレンズ会員（オンライン会員） 10月7日（日）先行発売開始

料金：全席指定

【1階席】一般5,000円／ユース（25歳以下）4,000円

【2階席】一般4,000円／ユース（25歳以下）3,000円

※未就学児童入場不可 ※ユースチケットは、公演当日に受付にて年齢が確認できる証明書（学生証、免許証等）をご提示いただき、指定席券とお引換えいたします。

チケット取扱：

ロームシアター京都オンラインチケット <https://www.e-get.jp/kyoto/pt/>

ロームシアター京都チケットカウンター（窓口・電話）TEL.075-746-3201（10:00～19:00、年中無休）

京都コンサートホールチケットカウンター（窓口・電話）TEL.075-711-3231

（10:00～17:00、第1・3月曜休※祝日の場合は翌日）

チケットぴあ <http://t.pia.jp/> 0570-02-9999（Pコード：489-678）

ローソンチケット <http://l-tike.com/> 0570-084-005（Lコード：55441）

【お問合せ】ロームシアター京都チケットカウンター 075-746-3201

【クレジット】

舞台監督：前原和比古（株式会社 京都舞台美術製作所）

照明：宮島靖和（株式会社 流）

空間設計：ドットアーキテクト

宣伝デザイン：井川祥子

【主催】京都市、ロームシアター京都（公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団）

【助成】平成30年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業

【特別協賛】公益財団法人稲盛財団